

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2022-006
2.研究課題名	てんかん患者におけるメンタルヘルスヘルスリテラシーの実態
3.研究期間	令和4年 11月（倫理委員会承認後）～ 令和6年 3月 31日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） てんかんはてんかん発作を起こす疾患でありその有病率は0.76%とされる（Fiest et al., 2017）。てんかん患者はうつ症状や不安症状などの精神症状を併存することが多い（Schmitz, 2005）。適切な治療につながるためには、てんかん患者自身が自らの精神症状に気づくことや専門家に援助要請を行うことが重要である。メンタルヘルスに関する援助要請を促進しうる要因としてメンタルヘルスリテラシー（Mental Health Literacy; MHL）が挙げられる。MHLは「メンタルヘルスの問題の認識、管理、予防に役立つ、メンタルヘルスに関する知識や態度」と定義される（Jorm et al., 1997）。MHLに関する研究としては、うつ病患者のMHLと援助要請の関係について検討したものがみられる（Gebriel et al., 2010）。しかし、てんかん患者のもつMHLを測定したものはこれまでにない。したがって、本研究においてはてんかん患者のもつMHLの特徴について記述することを目的とする。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 本研究においては、てんかんの診断がある患者に対して幅広い対象者からの回答を募ることを目的として、インターネットリサーチ会社である楽天インサイトのパネル登録者を対象として実施する。具体的には、以下のとおりである。 ＜てんかん患者群＞ 楽天インサイトの「疾患パネル」に登録しており、学習障害・認知症の診断がなく、「てんかん」の診断を受け、てんかんの治療を受けている18歳以上の男女200名程度。 ＜統制群＞ 楽天インサイトの「疾患パネル」に登録していない、学習障害・認知症の診断がなく、「てんかん」の診断を受けたことがない18歳以上の男女200名程度。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 教育心理学講座 臨床心理学分野 Tel 795-6146

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）